

地域感覚に関する基礎的研究* その2

- 関東地方の地域感覚について -

The Basic Research About The Area Sense* No. 2

About The Area Sense At The Kanto District

四方紅美代**・尾崎晴男***

By Kumiyo SHIKATA**・Haruo OZAKI***

1. はじめに

本研究は、「地域らしさ」に着目し、これは何から見出すことが出来るのかを主軸に研究している。都市・農村の計画・設計では、「地域らしさ」を組み込む手法として、その土地の歴史などから見出すことが多い。しかし、「地域らしさ」は、歴史やまち並みを構成する色彩など目に見える事柄の他に、その土地で暮らしてきた人々の感覚にも込められていると考えられる。この感覚を「地域感覚」とし、関東および東北の二つの地方から実際に架けられている橋の形状を用いてアンケート調査、分析した。その結果、同一地方内でも形への視点、評価が異なる傾向が得られた。この傾向から、今回は、デザイン的な要素を全て省いた形に対しても、評価の視点が異なるのかを知る目的で、関東地方に焦点を絞りアンケート調査の実施、分析をし、その結果について述べる。

2. 実験手法

(1) 形および言葉

土木構造物である橋梁の形状を分解して行くと、ア - チは円形、桁は四角形（直線）、トラスは三角形となる（図 - 1）。人は、生まれながらにして形から力の流れを視覚的に読み取る

*キーワード：地域計画，イメ - ジ分析，意識調査分析

**学生員，工修，東洋大学大学院工学研究科

（埼玉県川越市鯨井2100番地，TEL:0492-39-1393，

E-mail: dd0100024@toyonet.toyo.ac.jp）

***正員，工博，東洋大学工学部建設環境学科 助教授

（埼玉県川越市鯨井2100番地，TEL:0492-39-1393，

E-mail:ozaki@eng.toyo.ac.jp）

感覚がある。この力学的感覚を考慮して、本実験では、分解した形を単体ではなく、板の上に載せた印象を持たせる図として提示した。提示した形は、表 - 1 にまとめる。

言葉については、「力強さ」など形への印象の度合いを知るため、簡単な形容詞を対にして用いている（表 - 2）。

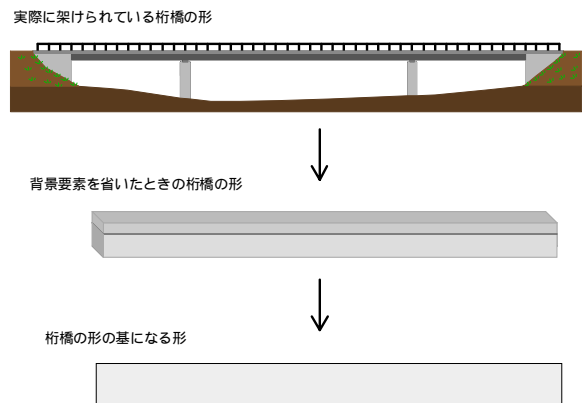


図 - 1 形の分解図

表 - 1 使用した形の一覧表

形状種類	設問番号	形状図	設問番号	形状図
四角 (直線)	問1			
円	問2		問3	
三角	問4		問5	

表 - 2 使用した言葉の一覧表

力強い印象	安定している感じ	不安定な感じ
	頑丈な感じ	華奢な感じ
形への印象評価	見慣れた印象	見慣れない印象
	めりはりのある感じ	めりはりのない感じ
	好きな形	嫌いな形

(2) 生活環境の分類

本研究では、自然によって創り出され、織り

成される地形条件を基に、集落が形成され、生活環境が構成されてくると考えている。山の近くや平地で暮らしたなど地形の影響が生活環境を変え、これが要因となり地域感覚差が生じる。また、青年期までの人格の形成においても生活環境が影響していると考えられる。

関東地方圏内で考えられる生活環境は、平地、川辺などである。秩父盆地や成田山の門前町なども考えられる。しかし、今回は、地形を基にした生活環境に絞り、表 - 3 のように分類した。

表 - 3 生活環境の一覧表

街中で都会的な環境で暮らしていた
平地で田畑が広がる郊外で暮らしていた
山に囲まれていた
川の近くに暮らしていた
山と川の近くに暮らしていた
海の近くに暮らしていた

(3) 分析方法

関東地方内でも生活環境が異なれば、形への視点、評価は違うものと考えている。このため、アンケート結果を関東地方全体と圏内の都県別、さらにこれらを生活環境別に分類する必要がある。アンケート調査後、地方別などに分けて集計・分類作業を行っている(図 - 2)。これらの作業から得られたものに主成分分析を行う。

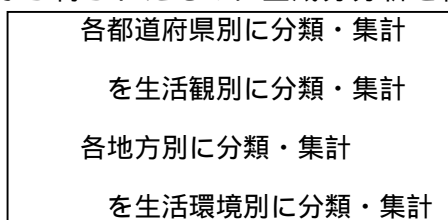


図 - 2 分類作業の流れ

アンケート調査では、「好き - 嫌い」など形容詞対を用いて、どのような形を好むのかなど心の中を測定するSD法の手法を採用している。生活環境や都県別に見たとき、総合的にどのような形が感覚に合うのか知るために主成分分析を用いる。また、「データの全体情報の何%までが説明できるのかを示す指標」¹⁾である累積寄与率は、一般的に80%とされている。

したがって、本分析では、累積寄与率80%までの主成分を採用する。

3. 実験結果

(1) 回答者の構成

関東地方で生活する人々の地域感覚を知るためのアンケート調査であるため、圏内にある東洋大学に協力して頂いた。回答者は、東洋大学の2年生、3年生の計91人で、うち関東地方の出身者は71人である。関東地方の圏内別では、埼玉県が47%と高い(図 - 3)。生活環境別では、「平地で田畑が広がる郊外で暮らしていた」人と「街中で都会的な環境で暮らしていた」人が、30%以上と高く、山や川など特徴的な生活環境者はやや少ない(図 - 4)。

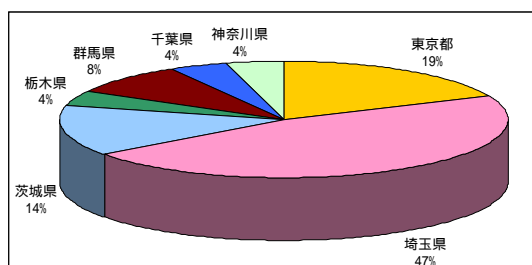


図 - 3 都県別の回答者構成

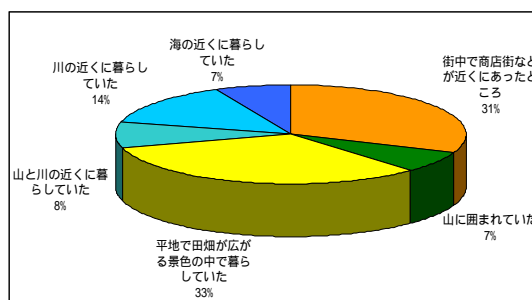


図 - 4 関東地方全体の生活環境者構成

(2) 関東地方全体の傾向

関東地方の全体とそれぞれの生活環境別に分類した場合の2つの面から主成分分析を行った。累積寄与率は、それぞれが80%を超えた第2主成分までを対象とする。

提示した5つの形に対し、関東地方全体では、四角形に力強さを受け、印象評価が高い傾向にある。生活環境別では、総合的に高印象を受けたのが四角形か三角形で、円形に対しては低い評価であった(表 - 4)。形への視点は、第1に関東地方全体、生活環境別ともに力強さなど全ての印象からの総合的な観点から評価する傾向が強い。しかし、第2の視点からは、印象の

強弱、力強さなど個々にばらつきが出ている（表 - 5）。特に、「平地で田畑が広がる郊外で暮らしていた」人と「川の近くで暮らしていた」人では、形の評価、視点が異なる傾向が強い（図 - 5, 6）。

表 - 4 総合評価の視点から見た形の順位

	四角	円(上)	円(下)	三角	三角(二連)
関東地方全体	1	4	5	3	2
平地で田舎	3	4	5	1	2
街中で都会	2	4	5	3	1
川の近く	1	4	5	3	2
山の近く	2	3	5	1	4
海の近く	1	4	5	2	3

表 - 5 形への評価視点

	主成分NO.1	主成分NO.2
関東地方全体	形の総合評価	力強い印象 - 印象の薄い形
街中で商店街などが近くにあったところ	形の総合評価	形への印象評価
平地で田畑が広がる景色の中で暮らして	形の総合評価	印象が強い形
山に囲まれていた	形の総合評価	形への印象評価
川の近くに暮らしていた	形の総合評価	印象が低い形
山と川の近くに暮らしていた	形への印象評価	力強い印象を持つ形
海の近くに暮らしていた	形の総合評価	力強い印象を持つ形 - 好まない形

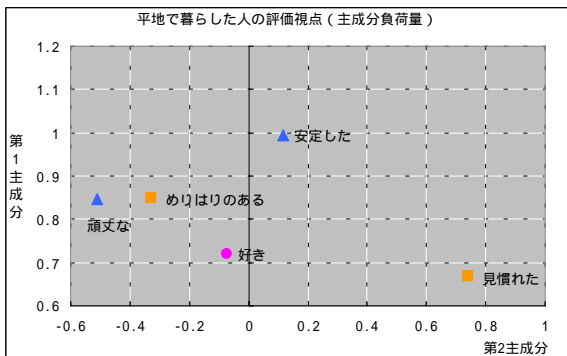


図 - 5 平地で暮らした人の評価視点

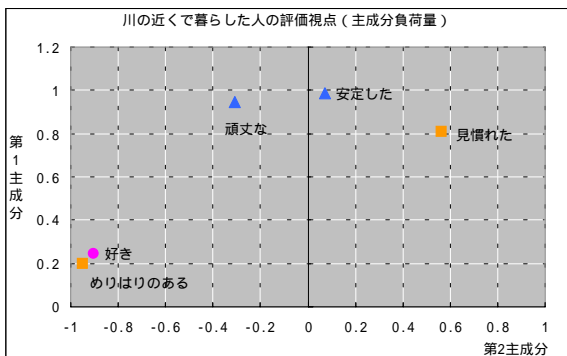


図 - 6 川の近くで暮らした人の評価視点

(3) 都県別の傾向

都県別では、形に対する視点が総合評価か印象評価のどちらかが強い傾向にある（表 - 6）。

形に対する評価は、東京都では四角形、円形が高い（図 - 7）。一方、神奈川県では、三角形、四角形がほぼ同じ評価で、ばらつきが少ない結果となっている（図 - 8）。

表 - 6 都県別による形への評価視点

	主成分NO.1	主成分NO.2
茨城県	形の総合評価	力強い印象 - 印象の薄い形
栃木県	力強い印象を持つ形 - 好まない形	形への印象評価
群馬県	形への印象評価	好む形
埼玉県	形の総合評価	形への印象評価
千葉県	形への印象評価	形の総合評価
東京都	形の総合評価	形への印象評価
神奈川県	形の総合評価	形への印象評価

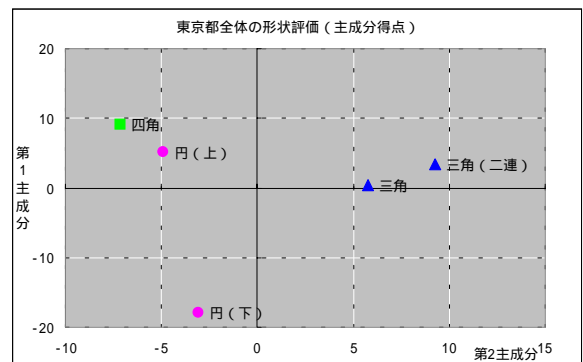


図 - 7 東京都の形状評価

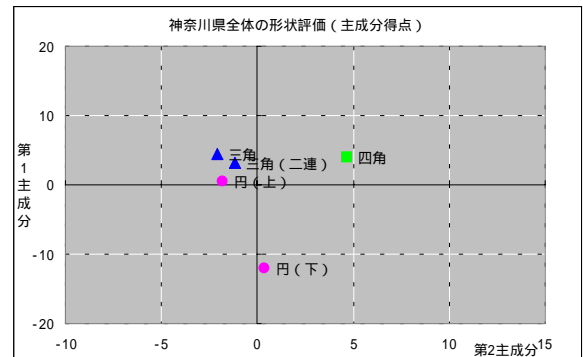


図 - 8 神奈川県の形状評価

(4) 埼玉県の生活環境別による傾向

都県別の生活環境による分析結果の代表的なものとして、埼玉県の生活環境別について結果をまとめる。分析の結果、累積寄与率は第2主成分で80%以上を超える。そこで、第2主成分までを分析の対象とした。

埼玉県では、県全体の傾向と同じく生活環境が異なっても第1に総合的な観点から評価し、次いで、力強い、好みなど印象評価となっている（表 - 7）。この印象評価を詳細に見る。山の近く、山と川の近く、街中で暮らした人々は、

「好きな形」の視点が強い。一方、平地の人は「頑丈な感じ」、川の近くで暮らした人は形の「めりはり」の視点が強い傾向にあった(図-9)。

形の総合的な評価は2つに分かれる。平地、山の近くで暮らした人が四角形を、街中、川の近く、山や川の近くで暮らした人では三角形を評価する傾向にあった(表-8)。

印象評価の視点で「頑丈な感じ」が強かった平地の人は、半円形の上に四角形が載る図を好まない傾向にある(図-10)。

表-7 生活環境別による形への評価視点

	主成分NO.1	主成分NO.2
街中で商店街などが近くにあってところ	形の総合評価	形への印象評価
平地で田畑が広がる景色の中で暮らして	形の総合評価	力強い印象を持つ形
山に囲まれていた	形の総合評価	好む形
川の近くに暮らしていた	形の総合評価	形への印象評価
山と川の近くに暮らしていた	形の総合評価	好む形

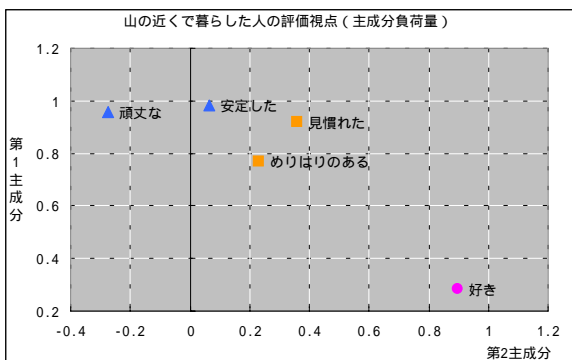


図-9 山の近くで暮らした人の評価視点

表-8 生活環境別による形の総合評価順位

埼玉県	四角	円(上)	円(下)	三角	三角(二連)
平地で田舎	1	3	5	4	2
街中で都会	2	4	5	3	1
川の近く	4	2	5	1	3
山の近く	1	2	5	4	3
山と川の近く	2	5	4	3	1

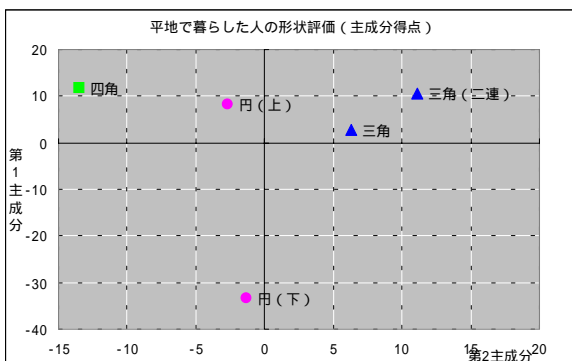


図-10 平地で暮らした人の形状評価

4. まとめ

得られた事柄をまとめると以下ようになる。

- ・ 関東地方全体および都県別では、四角形要素が三角形要素を高く評価する傾向にある。この傾向は、生活環境別でも同じである。
- ・ 形に対する評価の視点は、第1に力強さなど印象から総合的な観点で評価する傾向が強い。
- ・ 同一地方、県内であっても生活環境が異なれば、その評価の視点および形の評価は異なる傾向にある。

評価視点が生活環境によって異なる要因は、環境に密着した人の無意識による感覚が影響していると考えられる。これは、日常の中で、視覚をとおして感じていることが回答につながると考えられる。

また、要因の一つには用いた言葉の問題も含まれると思われる。半円の上に直線の形を載せた図は、「安定」や「頑丈」などの問い掛けには「不安定」と回答者に選択させ易い。図は、検討が必要である。

今後は、橋の形からその他の土木構造物に視点を変え、地域感覚のより明確なものを探し出すことが課題である。

参考文献

- 1) 菅民郎：多変量解析の実践，現代数学社，1993
- 2) 上田尚一：主成分分析，朝倉書店，2003
- 3) 藤原稔：ニュー・コンストラクションシリーズ 第8巻 橋の世界，1994
- 4) 吉田慎悟：まちの色をつくる 環境色彩デザインの手法，1998
- 5) 武光誠：県民性の日本地図，文藝春秋，2001

